

近世史料館・春季展

「卯辰山再見」



金府大絵図 大 1005 卯辰山部分拡大画像処理済

卯辰山の名の由来って？

藩政時代登るのが禁じられた山って本当？

**もう一度昔の文書・絵図から卯辰山・金沢の町を
見てみませんか？**

期間 平成19年4月3日(火)～ 同年6月17日(日)

場所 金沢市立玉川図書館近世史料館展示室

卯辰山豆知識



卯辰山開拓の光景

(稿本金沢市史 K 2-212)

卯辰山の名称由来？

卯辰山とは古名宇多須山が、山麓の村が卯辰村と称されることから、卯辰山と言われるようになったようです。

卯辰村は、大衆免村または御所村から見て卯辰の方角だからとも言われています。

別名臥竜山とも言われ、上杉謙信等が北陸遠征時に誌題いしたとされていますが、確実な証拠はありません。

元禄・享保の頃は茶臼山の名前がよく用いられ、その後は向山むかいやまと称されることが多かったようです。観音山かんのんやま・愛宕山あたごやま・摩利支天山まりしてんやま・毘沙門山びしゃもんやま・春日山かすがやま・油木山あぶらきやま等の小名を有する。向山の当て字として夢香山むこうやまを使うこともあったようです。(加能郷土辞彙等より)

卯辰山は登山禁止の山だったの？

卯辰山は「三壺聞書」(16.28-12 ⑩)金沢城再火難の章に、「利家公築かせ給う御城なれど、あの茶臼山の目の下にて、珠に小立野も城のために宜しからず、上口より五千、下口より五千ほどあれば、余り手間も入間敷と被申し」と記されたように、軍事的には重要な山で、鉄砲を撃つことや幕張は禁止されました。

しかし登山の禁止令は見つかっていません。文政11年10月には金子鶴村が庚申塚から一本松まで山遊し(鶴村日記)、元治2年2月には梅田甚三久が庚申塚から一本松を一巡しているようです(梅田日記)。

安政の泣き一揆では、山で騒いだ者の代表者が処罰されたようです。卯辰山が藩政期に登山禁止の山だったのか、考え直しても良いのではないのでしょうか。



夷曲歌集百人一首・k 9-47

卯辰山一本松

河北郡卯辰山にあった巨松。

太田但馬の家臣、井上勘左衛門の灰塚に植えられたものとされています。金沢名所として藩政期から度々俳句等に詠われています。

「また類ひあらし吹きゆくひとつ松千世千世と呼ぶ雀色時」(夷曲歌集百人一首の金沢八景より)

明治23年2月23日午前11時頃、遊山客の焚火によって燃え出し、24日午後1時頃に灰燼に帰したとされています。

(「加能郷土辞彙」等より)

卯辰山庚申塚

越前朝倉義景が織田信長に攻め滅ぼされたとき、その家臣堀左近正之が捕らわれ尾州で入獄しました。左近の母が朝倉家の鎮守青面金剛尊に祈念したところ、庚申の夜に猿が現れて左近を脱出させてくれたそうです。左近は後に剃髪して万蔵坊と称し、茶臼山にお堂を建てて庚申堂と称したと伝えられています。元和2年城中から目障りとして庚申堂は三間道に移されましたが、跡地には庚申塚の名を伝えたとされています。藩政期の金沢城下図等では、卯辰山に多くの卒塔婆が立っているように記載されている所が庚申塚だと思われます。(「加能郷土辞彙」等より)

卯辰山勘兵衛塚

河北郡卯辰山の開拓前、元庚申塚に並ぶ峰に石碑があつて由比氏の祖先勘兵衛清光の塚と言われていました。由比勘兵衛清光は利家・利長・利常三代に仕えた槍の勇士とされ、大坂夏の陣にて大坂城一番乗り等の功績があつたとされ、金の番取衆に選ばれたとされています。

「亀廻尾廻記」には、勘兵衛死後もなお君辺に仕へんとして金沢城のよく見える所に葬られることを遺言した事によるとされています。(「加能郷土辞彙」等より)

『卯辰山再見』 展示史料一覧

090-309	賀州河北地図 年代不明
096.0-354	北の山（歌集）
16.11-52	見聞袋郡年記草稿
16.28-12⑩	三壺聞記（金沢城再火難の事）
16.28-71	温古集録
16.31-65	由比勘兵衛由緒帳
16.40-87⑬	御用方手留 60 卷
16.63-170	七木の制
16.63-171	七木御格帳 16.63-171
16.64-39②⑮	改作所旧記
16.81-746	由比勘兵衛所持の兜由来書并紙面
16.84-39	古蹟志
19.9-181	卯辰山之図
K2-1323	鶴村日記
K2-3144	金沢名所 浅野川大橋より向山を望む
K2-3223	卯辰山開拓録
K2-444	金沢地図（寛政後期）
K9-47	夷曲歌集百人一首
大1010	金沢惣絵図 嘉永・安政
大1041	茶臼山々崩図

（注）展示替等により展示されていないものもあります。



卯辰山之図 19.9-181